

「おおさか元気広場 推進事業」の取組

府立盲・聾・養護学校、地域での障害のある子どもを中心として

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府教育委員会では地域社会全体で子どもの豊かな成長を育む「教育コミュニティづくり」を推進するものとして、「放課後子ども教室推進事業」を活用し、「おおさか元気広場推進事業」を実施しています。

平成一九年度は、市町村事業として三二八か所、府事業として小学部設置の府立盲・聾・養護学校一七校で展開しています。活動



「高槻出かけよう会」の活動

人どうしの交流を図ることを目的とし、地域の実情に応じてさまざまな形で取り組んでいます。

保護者による実行委員会が中心となって運営

府立高槻養護学校の事例

府立高槻養護学校小学部は、「基本的な生活習慣の確立を目指しながら友だちとの交流や集団への参加」を目標にしています。



パソコンで画像を加工する

を通じて、子どもどうし、子どもと大人、大人と大人、大間中に校外に出かけることで、子どもたちが豊かで有意義に過ごす活動をしています。それ以外にも、ふれあい冬祭り等の地域行事にも参加して、地域との交流を深めています。

卒業生が参画し、ボランティアとして指導

府立中津養護学校の事例

府立中津養護学校では、府立整肢学院^{※1}での療育と有機的に連携し、障害のある子どもたちの自立と社会参加に向けて取り組んでいます。

府立中津養護学校の「おおさか元気広場」では、コンピュータ会社に勤める卒業生が中心となり、他の卒業生にも呼びかけ活動して

います。活動はコンピュータを活用し、卒業生のアドバイスを受けながら、色や形を変えたり、組み合わせたりして画像を加工し、Tシャツにプリントします。完成したTシャツは校内に展示し、子どもたちの作品を多くの方に見ていただきます。

地域の

放課後児童クラブと連携

府立盲学校の事例

府立盲学校は、地域の小・中学校と長年交流を続けており、専攻科理療科では地域の



絵本や物語の朗読

方々等に施術を行っています。これらは、さまざまな方法で学校を開かれたものとするためのものです。

府立盲学校の「おおさか元気広場」では、在籍児童だけでなく、近隣の小学校の放課後児童クラブの児童も参加しています。ともに活動することで、互いが助け合い認め合う態度を養うとともに、障害への理解、啓発推進を目的としています。

活動は、絵本や物語の朗読を聞くことと、工作活動、ゲームが中心です。絵本や物語の朗読には、卒業生の保護者も含めた朗読ボランティアサークルの方が参加しています。

障害のある子ども

居住地域での活動

柏原市「い・ち・み」の事例

市町村での「おおさか元気広場」の中に、障害のある子ども居住地域での活動として柏原市の子ども教室「い・ち・み^{※2}」があります。

おわりに

今後は、府立盲・聾・養護学校における「おおさか元気広場」と市町村事業として地域密着型で実施している「おおさか元気広場」との交流をすすめるとともに、放課後や週末等に障害のある子どもが気軽に参加できる活動を増やすことが求められています。

そのため、「おおさか元気広場」の活動を支える地域人材を拡充し、地域の子どもの地域で育てる「教育コミュニティづくり」を、いっそう充実・発展させていきたいと考えています。

(市町村教育室地域教育振興課)